



2021年10月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年3月11日

上場会社名 株式会社 トップカルチャー
 コード番号 7640 URL <https://www.topculture.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長COO (氏名) 清水 大輔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長CFO (氏名) 吉田 勝一

TEL 025-232-0008

四半期報告書提出予定日 2021年3月16日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年10月期第1四半期の連結業績(2020年11月1日～2021年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年10月期第1四半期	7,640	2.5	145	75.9	135	13.3	126	15.6
2020年10月期第1四半期	7,835	11.0	82	30.5	119	13.7	109	32.6

(注) 包括利益 2021年10月期第1四半期 127百万円 (16.5%) 2020年10月期第1四半期 109百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年10月期第1四半期	10.48	10.45
2020年10月期第1四半期	9.06	9.04

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年10月期第1四半期	20,372	3,774	18.3	309.34
2020年10月期	20,182	3,646	17.9	298.86

(参考) 自己資本 2021年10月期第1四半期 3,738百万円 2020年10月期 3,611百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年10月期		0.00		0.00	0.00
2021年10月期					
2021年10月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年10月期の連結業績予想(2020年11月1日～2021年10月31日)

2021年10月期の連結業績予想につきましては、1月の新型コロナウイルス感染症の第3波感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令もあり、依然厳しい経済環境が続いているため未定としております。今後、合理的な判断が可能となった段階で速やかに公表いたします。詳しくは、決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年10月期1Q	12,688,000 株	2020年10月期	12,688,000 株
期末自己株式数	2021年10月期1Q	603,480 株	2020年10月期	603,480 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年10月期1Q	12,084,520 株	2020年10月期1Q	12,084,520 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2021年10月期の連結業績予想につきましては、1月の新型コロナウイルス感染症の第3波感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令もあり、依然厳しい経済環境が続いているため未定としております。今後、合理的な判断が可能となった段階で速やかに公表いたします。詳しくは、決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
4. 補足情報	10
(1) 生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響もあり、個人消費や企業活動の収縮、雇用環境の悪化等が長期化し、先行きが不透明な状態が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境につきましても、2020年4月の緊急事態宣言以降、全店舗にて営業時間の短縮を継続して行っており、感染症拡大を防ぐための新生活様式などの各種対策が、今後も店舗運営やお客様の消費活動にどのような影響を及ぼすか想定が難しくなっております。

このような状況の中で、当社は2020年11月蔦屋書店河渡店内に、コワーキングスペース「CROSS lounge+」をオープンいたしました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、今後増大していくであろうテレワーク需要に応え、近隣のお客様の交流スペースとしても貸出を行っております。

また、コロナ禍の中で、感染防止対策を行いつつ、お客様に必要とされる衛生用品などを各店舗で販売し、大手メーカーとコラボした販売企画や、地域特産品のオリジナル販売企画などを多数行ってまいりました。同時に、店舗の運営力・収益力の強化対策として、売上構成比率の見直しや、営業時間の短縮、セルフレジの導入による店舗運営コストの削減を推進しております。

一方で、蔦屋書店豊栄店が契約満了にともない2021年1月に閉店いたしました。これによりグループ店舗数は74店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高7,640百万円（前年同期比97.5%）、営業利益145百万円（前年同期比175.9%）、経常利益135百万円（前年同期比113.3%）、親会社株主に帰属する四半期純利益126百万円（前年同期比115.6%）となりました。

売上・利益の増減要因

売上面につきましては、コミック売上が伸長した書籍や、発売タイトルが好調だったセルCDは好調に推移しましたが、記録的大雪により新潟地区及び東北地区の来店客数が減少したことが大きく影響し、当社グループの主軸である蔦屋書店事業全体の売上高前年同期比は97.4%（既存店100.8%）となりました。

利益面につきましては、セルフレジの利用促進や店舗オペレーションの見直しにより業務の効率化が進み、販管費の削減に繋がりました。その結果、営業利益は前年同期比75.9%増加し145百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比13.3%増加し135百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比15.6%増加し126百万円となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

①蔦屋書店事業

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高7,453百万円（前年同期比97.4%）、セグメント利益は123百万円（前年同期比187.5%）となりました。

主力商品の売上高前年同期比は、書籍104.2%（既存店107.9%）、特撰雑貨・文具88.0%（既存店89.9%）、レンタル73.6%（既存店76.8%）、ゲーム・リサイクル100.9%（既存店107.8%）、販売用CD114.5%（既存店116.7%）、販売用DVD50.9%（既存店52.2%）、賃貸不動産収入98.5%（既存店99.0%）となりました。

②スポーツ関連事業

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高48百万円（前年同期比98.3%）、セグメント利益1百万円（前年同期セグメント損失5百万円）となりました。

③訪問看護事業

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高24百万円（前年同期比128.5%）、セグメント利益0百万円（前年同期セグメント利益0百万円）となりました。

④その他

当セグメントの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高115百万円（前年同期比98.2%）、セグメント利益3百万円（前年同期比150.0%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産につきましては、前連結会計年度末比190百万円増加し、20,372百万円となりました。これは主に現金及び預金、売掛金、商品の増加により流動資産が356百万円増加した一方、リース資産、建物及び構築物、敷金及び保証金等の減少により固定資産が166百万円、減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末比62百万円増加し、16,597百万円となりました。これは主に1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金が438百万円、リース債務が117百万円、それぞれ減少した一方、買掛金が748百万円増加したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末比127百万円増加し、3,774百万円となりました。これは主に、利益剰余金が126百万円増加したことによるものです。

なお、当第1四半期連結累計期間においては、期末日が金融機関休業日であるため、722百万円の支払が翌営業日に繰り越されております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い、経済活動の停滞が続いております。感染拡大防止に向けたワクチン摂取も我が国でも始まっておりますが、一方で変異ウィルスの感染者も全国で発生し、新たな感染拡大の危険性も出てきております。3月に発表された2月の消費者動向調査においても、消費者マインドに「足踏みがみられる」と1月より下方修正されております。こうした状況から、今後通常の経済活動に戻るには、もう少し時間が掛かるものと思われまます。

当社グループの事業を取り巻く状況におきましても、当社が22店舗を展開する東京、神奈川県、埼玉県の1都3県における緊急事態宣言は3月後半まで2週間延長され、引き続き行動自粛期間も続くことから、当社事業への影響も少なからずあると考えております。2021年10月期の通期業績予想に関しましては、緊急事態宣言が解除され、合理的かつ適正な予測が可能となった時点で皆さまにお知らせいたしますので、ご理解の程、よろしく申し上げます。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,222,414	2,457,747
売掛金	353,096	415,468
商品	7,693,293	7,756,649
前払費用	279,485	270,905
未収入金	112,797	117,289
その他	169,705	169,099
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	10,830,389	11,186,756
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,962,192	1,918,716
土地	1,423,759	1,423,759
リース資産(純額)	2,662,285	2,568,989
その他(純額)	113,442	124,589
有形固定資産合計	6,161,680	6,036,056
無形固定資産		
その他	50,744	48,920
無形固定資産合計	50,744	48,920
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,832,878	2,803,031
その他	306,823	297,773
投資その他の資産合計	3,139,702	3,100,804
固定資産合計	9,352,127	9,185,781
資産合計	20,182,516	20,372,537

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,506,658	4,255,289
短期借入金	1,800,000	1,800,000
1年内返済予定の長期借入金	1,589,710	1,575,669
リース債務	467,361	456,513
未払法人税等	78,046	28,506
賞与引当金	48,000	25,000
未払金	553,155	633,508
その他	417,055	304,223
流動負債合計	8,459,987	9,078,711
固定負債		
長期借入金	3,722,782	3,298,722
リース債務	3,429,190	3,322,457
資産除去債務	555,797	544,101
退職給付に係る負債	64,666	60,910
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期未払金	41,792	33,667
長期預り敷金保証金	198,501	196,067
その他	126	347
固定負債合計	8,075,797	7,519,214
負債合計	16,535,785	16,597,925
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	2,303,141	2,303,141
利益剰余金	△427,926	△301,340
自己株式	△270,027	△270,027
株主資本合計	3,612,557	3,739,143
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,035	△923
その他の包括利益累計額合計	△1,035	△923
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	26,960	28,142
純資産合計	3,646,731	3,774,611
負債純資産合計	20,182,516	20,372,537

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年11月1日 至2021年1月31日)
売上高	7,835,413	7,640,658
売上原価	5,491,749	5,454,182
売上総利益	2,343,664	2,186,476
販売費及び一般管理費	2,261,168	2,041,394
営業利益	82,495	145,081
営業外収益		
受取利息	4,037	3,347
協賛金収入	5,867	5,437
受取補償金	63,313	—
その他	5,441	7,161
営業外収益合計	78,660	15,947
営業外費用		
支払利息	29,741	25,982
雑損失	600	—
収用に伴う閉店費用	11,645	—
営業外費用合計	41,987	25,982
経常利益	119,168	135,046
特別損失		
減損損失	1,624	—
特別損失合計	1,624	—
税金等調整前四半期純利益	117,543	135,046
法人税、住民税及び事業税	7,282	7,278
法人税等合計	7,282	7,278
四半期純利益	110,261	127,768
非支配株主に帰属する四半期純利益	743	1,182
親会社株主に帰属する四半期純利益	109,518	126,585

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年1月31日)
四半期純利益	110,261	127,768
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△521	112
その他の包括利益合計	△521	112
四半期包括利益	109,740	127,880
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	108,996	126,698
非支配株主に係る四半期包括利益	743	1,182

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染拡大が事業に影響を与える期間と大きさについては、前事業年度の有価証券報告書

(追加情報)に記載しました仮定に重要な変更はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年1月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注)2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業				
売上高							
外部顧客に 対する売上高	7,650,256	48,201	18,951	118,003	7,835,413	—	7,835,413
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	873	—	—	873	△873	—
計	7,650,256	49,075	18,951	118,003	7,836,287	△873	7,835,413
セグメント利益又 は損失(△)	65,960	△5,785	641	2,104	62,920	19,575	82,495

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業			
減損損失	1,624	—	—	—	—	1,624

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」及び「訪問看護事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注)2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業				
売上高							
外部顧客に 対する売上高	7,453,685	46,688	24,345	115,938	7,640,658	—	7,640,658
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1,554	—	—	1,554	△1,554	—
計	7,453,685	48,243	24,345	115,938	7,642,213	△1,554	7,640,658
セグメント利益	123,653	1,203	493	3,156	128,506	16,575	145,081

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業であります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

商品別販売状況

セグメントの名称		前第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年1月31日)		前年同期比 (%)
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)	
蔦屋書店事業	書籍	4,138,127	52.7	4,310,111	56.4	104.2
	特撰雑貨・文具	1,236,018	15.8	1,087,774	14.2	88.0
	レンタル	783,304	10.0	576,557	7.6	73.6
	ゲーム・リサイクル	365,335	4.7	368,584	4.8	100.9
	販売用CD	245,245	3.1	280,747	3.7	114.5
	賃貸不動産収入	146,427	1.9	144,239	1.9	98.5
	販売用DVD	193,900	2.5	98,609	1.3	50.9
	その他	541,898	6.9	587,062	7.7	108.3
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,650,256	97.6	7,453,685	97.6	97.4	
スポーツ関連 事業	外部顧客に対する売上高	48,201	0.6	46,688	0.6	96.9
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	873	0.0	1,554	0.0	177.9
	計	49,075	0.6	48,243	0.6	98.3
訪問看護事業	外部顧客に対する売上高	18,951	0.2	24,345	0.3	128.5
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	0.0	—
	計	18,951	0.2	24,345	0.3	128.5
その他	外部顧客に対する売上高	118,003	1.5	115,938	1.5	98.2
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	0.0	—
	計	118,003	1.5	115,938	1.5	98.2
合計		7,836,287	100.0	7,642,213	100.0	97.5

- (注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。
3 蔦屋書店事業の「その他」は、図書カード他であります。